今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

〇3日18日～

今週最大の注目は日銀金融政策決定会合とFOMC（米連邦公開市場委員会）です。
日米の金融政策は真逆の方向性となっており、為替相場やそれ以外のマーケットにどのような影響が出るかがポイントです。
日本がマイナス金利解除に動くかどうかということやETF（上場投資信託）などの買い入れを停止するなど金融緩和の縮小を開始するかなど金融政策の変更がどうなるかです。
もし、マイナス金利解除となれば2016年以来、8年ぶりとなります。
8年前と今では状況がかなり違っているので、日本が利上げに動くことで円高がどの程度進むのか意見が分かれています。
昔ほど円高にならないという声もあります。
その理由としては、構造的に貿易黒字が減って経常黒字の中身も変わり、円が買われにくい状況になってきていることなどがあります。
また、先週はTOPIX（東証株価指数）が午前の取引で2％を超える下落となりましたが日銀の買い入れはありませんでした。
今までは午前の取引で2％を超える下落が起これば午後に買いが入るという動きが見られました。
さすがに株価がここまで上昇しているのに買いに動けば批判も出ると思うので、日本も今までのように大規模金融緩和を続ける理由がなくなりつつあります。
そして、インフレについても大手企業が軒並み賃上げに動き出しているためデフレ状態を脱しつつあります。
ほとんどの中小企業や非正規社員、バイトなどの賃金は大手企業のような賃上げとはならず、街角景気はいいとは思えませんが金融の世界の数字だけを見ればデフレ、金融緩和はそろそろ終わり、インフレ、金融引き締めの方へ動き出しています。
そして、米国は消費者物価指数、卸売物価指数ともに予想より強い数字となっており、インフレがなかなかおさまらない状況です。
インフレ率が高いまま利下げをすると、再びインフレがひどくなるため利下げ時期は予想より遅くなる可能性があります。
今週は指標発表で相場が乱高下する可能性もあるためリスク管理は厳重にしたいです。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

＜ドル／円＞

Copyright© （有）ユビキタストレーディング　All Rights Reserved

今週の相場はどうなる？

先週のドル／円は、再び円安方向へ動きました。
ドル／円は週明けの146円台から週末には149円台まで上昇して終わっています。
日銀の政策がわかるまでは動きにくい状況ということで、上値も下値も限定された動きとなりましたが今週は円高が再び進行する可能性があります。
下値が148円を割り込んでくると先週初めの146円台を起点とする上昇が崩れてくるため注意がいります。
148円割れとなると再度146．5円を試す動きに警戒しないといけません。
ここも割り込むと円高がさらに進むリスクがあります。
上値は149．2円を超えると150．8円あたりが視野に入ってきます。

＜気になるクロス円＞

クロス円も先週は上昇しているペアも多く、この流れが続くかどうかです。
日銀の政策で円高が進めばクロス円も流れが変わって急落するリスクがあるので、日銀金融政策決定会合後の動きには特に注意したいです。
オセアニア通貨は他のペアに比べて弱い動きとなっているので、下落に注意したいです。

＊クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

＜今週のファンダメンタル？＞

日本では1月機械受注、日銀金融政策決定会合、植田・日銀総裁定例会見、2月貿易統計、2月全国消費者物価指数などがあります。
米国では3月NAHB住宅市場指数、2月住宅着工件数、1月対米証券投資、FOMC政策金利、パウエル・FRB議長定例会見、10－12月期四半期経常収支、3月フィラデルフィア連銀製造業景気指数、前週分新規失業保険申請件数、3月製造業・サービス部門・総合PMI（速報値）、2月景気先行指標総合指数、2月中古住宅販売件数などが発表されます。
欧州ではドイツとユーロ圏で3月ZEW景況感調査、3月製造業・サービス業PMI（速報値）、ユーロ圏で2月消費者物価指数、ラガルド・ECB総裁発言、ドイツで3月IFO企業景況感指数などがあります。
ほかには、オーストラリア、スイス、英国で政策金利、カナダと英国で消費者物価指数、ニュージーランドで10－12月期GDP、英国で英中銀金融政策委員会（MPC）議事要旨の発表などがあります。

Copyright©（有）ユビキタストレーディング　All Rights Reserved